

和書門類
五

和書門類			
二七二一三	九一三	八	冊
函	架	冊	類

內閣文庫			和書類
二七二一三	九一三	八	冊
函	架	冊	類

內閣文庫	
番號	和 27213
冊數	8 (5)
函號	203 121



六畜

の周礼六畜

註獸可畜者六

單牛馬羊犬豕

雞又事林廣記

曰牛資之以耕

馬資之以戰尤

有國有家者之

所不可緩也

ハヨリノヤク

風俗通曰俗説

狗別宿主善守

禦故著四門以

碎盜賊也續高

僧傳二十二曰

犬為防畜樛嚴

釋要鈔曰犬能

守禦因是名狗

為守狗

後草叢考

至るいふものよりまじりて

はらうりてまじりて

てまじりてまじりて

はらうりてまじりて

てまじりてまじりて

はらうりてまじりて

てまじりてまじりて

はらうりてまじりて

てまじりてまじりて

はらうりてまじりて

明治十二年 肆

七潘安仁藉田

賦曰高以下為

基肥以食為天

註鏡曰言天子

以下人為本人

以食為天善曰

漢書酈食其曰

王者以人為天

而民以食為天

多餘の君乃そ

る論語子

罕篇大宰問子

貢曰夫子聖者

孰何其多能也

子貢曰固天縱

之將聖又多能

也子閱之曰大

宰知我乎吾少

也賤故多能鄙事君子多乎哉不多也

也

大なりづく味を調ふ事る人たるは

と長七の命とつる多くあるれい合ひたりと

味とよく調ひたり時次り細之乃乃

乃乃づら変たり宿家なくらふ系

作は變結の好るる幽玄の乃

乃乃づら変たり宿家なくらふ系

作は變結の好るる幽玄の乃

乃乃づら変たり宿家なくらふ系

作は變結の好るる幽玄の乃

乃乃づら変たり宿家なくらふ系

也賤故多能鄙事君子多乎哉不多也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

たうとくは百部此は... たりたれつ... たりたれつ... たりたれつ... たりたれつ...

浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の...

浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の...

浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の...

浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の...

浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の...

浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の... 浄土宗の...

の... 国... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

人... 人... 人... 人... 人...

百行無所不有也而教之為網

魯使之務敗漁助夫焚其巢穴

非仁也奪其親愛非義也以斯

為事非禮也教民殘暴非智也

使萬物懷疑非信也揚升卷評

乏曰戒殺放生似為此說

元

賢戒殺生日夫物之與我形軀

雖隔知覺實同貪生怖死與人

何異豈他益經通今記曰懸覆

衆生故其與樂

名慈悲心
論語
公冶長篇顏淵曰願無伐善無施勞朱註曰或曰勞々事也勞勞非已所欲故不發施之於人

可奪志

可奪志

げ放つて又さういふ事
蝦りうてやまをぐる

一命を并へたることひんはる瘵

するやま人もさうりて甚

るをわへる家どうたつん夏のり

了すうらうらうんさうて一切のみ信を

足てれとまんとまを多敷の事

うん人侮りあうど

起回ハ

人よ業をかざると下也

物とまふある事

又いふことあるたさと

又いふことあるたさと

又いふことあるたさと

又いふことあるたさと

又いふことあるたさと

又いふことあるたさと

又いふことあるたさと

珠

九

物さる紀んふの方よりしてゆそりいふさるる
 あらふのさるるい。諸は切るるべし。
 是とるやまずして
 身はるる中意は乃んりあはるる
 とる紀人のさるるさるる。かほひあはるる
 皆塵をなれども誰か実乃相
 せざる。

同歸集曰根為
 不無性迷為
 實有

此は幻の字よりしは幼子れれをさるる
 一は幼子れれをさるる
 一は幼子れれをさるる

幻術の人の誠郭とさるるつくり人形をついて
 のさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 くのさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 くのさるるさるるさるるさるるさるるさるる

小止観治病篇
 曰息心相悦衆
 病即差又曰若
 用心失取則四
 百四病因之發
 生素問百病生
 氣病のさるる

文選蘇康養生
 論畧曰夫服藥
 求汗或有弗獲

病をうらむ事も皆くは
 病をうらむ事も皆くは
 病をうらむ事も皆くは
 病をうらむ事も皆くは

羅一峰曰使心常存客氣聽命則病根自除而病証不形
 病をうらむ事も皆くは
 病をうらむ事も皆くは
 病をうらむ事も皆くは
 病をうらむ事も皆くは

いふれをありあがりあがりしきして
と地しるるありあがりしきして

が智れまらりしる事と真とんは又礼のあは
さるるいれをとりて

張
子厚東鑑曰戲
言出於思也戲
動作於謀也

おらりて。まが紀うらみをおしきお敷多
あまの礼多をとりて

ひとあのみ失之人不睡らん事と思つて。
あまの礼多をとりて

たごま甲してを智と人なりあがりん
あまの礼多をとりて

とらあがり。心を人学あとりあがりん
あまの礼多をとりて

よ候とと。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

あらしそらうらびとらあがりん
あまの礼多をとりて

醜不事
うら曲礼曰在
以論語願無伐
善ありと云

とらあがり大なる職をを辞し
職とら友職之友あられハ
必ずそれ友とつらとと

利とをさつらるる公學乃力なり
利とをさつらるる公學乃力なり

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

とらあがり。れとの目とまがてんよ
あまの礼多をとりて

此曲礼曰貧者
不以貧耻為礼
老者不以筋力
為礼

涼殿東枕也
禮記曰寢時東首

論語鄉黨篇曰
疾君視之東首

加朝服抱純朱
子註曰東首以

受生氣也新安
陳氏曰天地生

氣始於東方
也六の礼 礼記

禮運曰體魄則
降知氣在上死

者北首生者南
向

礼記曰體魄則降知氣在上死者北首生者南向

た東を枕とす。陽氣とるなり。東を枕とす。陽氣とるなり。

小孔子も東首とす。寢後乃志る。寢後乃志る。

らひ或る枕者此の也。由河院の北首

の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

此の寝るなり。此の寝るなり。

名義集遠法師云云林夫三昧者何也

禁秘抄

先神事後他事

且暮敬神之儀

慮無懈怠向地

以神宮并内侍

所方不為御跡

也

日論曰一切禪

定心皆名三摩

三摩提秦言正

心行也。是心從

無始常曲不端

此三昧也。正相圓。通章科解曰三。摩地即三昧之。異稱天台大師。法華三昧曰於。...

親之辭吾我也
子男子之義称也

べるが致すれはるや
も是の同くるが
とすんかぶのこ。何ぞ
ありとも着せらんやと
いふれぬが

具氏トモウヂいふ侍らん世治は何しは侍らんやと云
と申すは

多岐タギさくば資考の條あつぐし枕策紙社のと
り條り考

はあつぐし資考の條と申すは枕策紙社のと
り條り考

いふ具氏の世治は何しは侍らんやと云
と申すは

尋も世治は何しは侍らんやと云付とる記と
あつぐし枕策紙社のとの中

向を世治は何しは侍らんやと云めとせられ
りおすて資考の條は

と申すは世治は何しは侍らんやと云事
に何ぞあると申すは

尸シさんと申すは世治は何しは侍らんやと云
年シおるは世治は何しは侍らんやと云ひとく女

房フウなシも世治は何しは侍らんやと云真マコトある世治は何しは侍らんやと云
あつぐし枕策紙社のとの中

あつぐし枕策紙社のとと申すは枕策紙社のと
り條り考

清シヨウと世治は何しは侍らんやと云申すは枕策紙社のと
り條り考

たり世治は何しは侍らんやと云たるふ具シ氏シお世治は何しは侍らんやと云
り條り考

と世治は何しは侍らんやと云申すは枕策紙社のと
り條り考

の世治は何しは侍らんやと云よ世治は何しは侍らんやと云ふ世治は何しは侍らんやと云
り條り考

く世治は何しは侍らんやと云申すは枕策紙社のと
り條り考

尸シさんと申すは世治は何しは侍らんやと云
り條り考

と申すは世治は何しは侍らんやと云事
に何ぞあると申すは

